



新潟県立看護大学
看護研究交流センター
2003

看護研究交流センターがめざすべきこと



新潟県立看護大学
看護研究交流センター長
中島 紀恵子

旧来より大学は、わが国の学術研究と研究者の人材養成の役割を担い、同時に地域の教育、健康、環境、文化、産業等の基盤を支える人材の育成を使命としてきましたが、今世紀に入ってこうした役割と使命に対する確実な実現がより一層求められております。

わが新潟県立看護大学は公立単科大学として、また、看護専門職業人養成を目的とする県下唯一の大学として2002年度に開学しました。折りしも公立大学は、納税者たる県民や国民の教育研究に対する意見を反映させた運営改革と、積極的な情報提供への役割に向って取り組み始めているところでした。自治体もまた、地域の自治・分権における制度及び行財政改革を一層進めていかなければならない時代に立っております。

小さな新設の看護系大学とはいえ、公立大学として設置自治体との連携のもとに、「地域貢献」を果たすことは、大学の本質的な使命です。

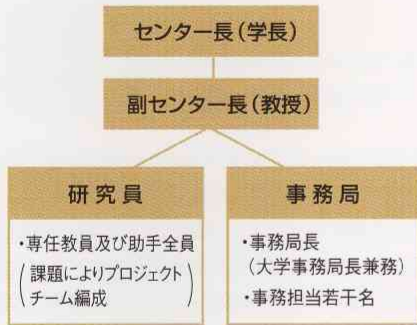
看護研究交流センターは、置かれている状況や条件を踏まえ、大学独自の理念・使命を認識しつつ教育研究を多様に展開するプロセスそのものが、「地域貢献」であるようなプログラムをもって活動する母体として、またその運営のあり方自体が大学の基盤強化に連鎖されていくことを期待して設置されました。とはいえ、開設から1年足らずです。教職員全員が走りながら自分育てをしつつ「大学力」に貢献する人間としての有り様を意識しない日はないと想像しておりますが、こうした教職員の奮闘ぶりを学生が「みる」ことを通して、自分の将来を構想できる機会になるなら、これも「地域貢献」といえるのではないかと考えております。

もとより看護研究交流センターの使命は、第一に、保健医療福祉におけるユーザーである県民が看護の質の向上にむけて看護職業従事者の生涯教育プランに貢献することであり、第二に、医療の質の向上に対する研究事業を推進していくことです。第三には、各市町村住民に健康やケアに関わる意見に答え、また教育研究情報を提供することです。

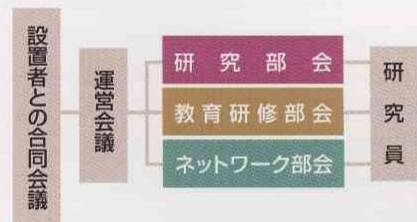
本学の教育研究機能及び看護研究交流センター事業のみならず、大学図書館が多く県の民に身近に便利に活用されることを願っております。末長いご支援をお願い申し上げます。



■ 組織



■ 組織運営について



多目的室

設備に視聴覚機器を備え、研究発表会や多人数用の会議室として利用できます。準備室が付属しており大きな機器・機材の展示も可能なスペースが確保されています。



センター事務局

情報交換と検索の場として、インターネット検索や統計処理が可能な機器を備えています。少人数のカンファレンスも可能です。

地域課題 研究事業

研究部会

調査研究事業として

- 「地域ケアの推進体制」
 - 「保健医療の情報化」
- の2テーマに関する分野についての研究を進めます。

(現在3つの研究班を構成し研究を進めています。)

生涯学習 支援事業

教育研修部会

【一般公開講座】

広く県民を対象として開講します。

【専門講座】

看護職者を対象として開講します。

【出前講座】

大学の特色を生かして本学教員が地域に出向いて開講します。

ネットワーク 構築事業

ネットワーク部会

- センター報の発行等により活動状況を報告します。
- 市町村や地域関係団体等とのネットワークづくりを推進します。

研究部会

部会長
教授 加固正子



新潟県内の福祉文化特性に応じたヘルスケア・サービスに貢献できる地域課題研究とヘルスケア提供者のためのリソース・アーカイブ（資料庫）構築のために必要な研究を行うことを研究目的としている。また、研究の成果は関係する地域のサービス活動のための教材やリソースとして広く紹介していく計画であり、そのため県内の看護職との協働による臨床研究を積極的に進めていくものである。

平成14年度から立ち上げた各研究グループによる研究は3テーマであり、2、3年にわたる計画である。研究テーマは（1）豪雪地帯のヘルスケア・ニーズに基づく実線の優先度評価に関する開発研究、（2）継続看護における地域連携システム構築、（3）ヘルスケア提供者のためのリソースアーカイブの構築である。また、平成15年度から新たに（4）難病及び痴呆介護者に対する総合的・効率的ケア体制の確立に関する研究が加わった。



第1研究班

研究班代表
教授 吉山直樹



われわれの研究班（チーム）は、「豪雪地帯のヘルスケアニーズに基づく実践の優先度評価に関する開発研究事業」の課題のもとに、多様な研究テーマに取り組んでいます。在宅ヘルスケアにかかわる多くの問題が研究テーマとして想定されるグループです。

県下各自治体の保健医療福祉分野の責任者・担当者からその自治体の課題を聴取し、内容を整理することから始まりましたが、本県の豪雪地帯には他地域では考えられない保健医療福祉分野のニーズ（ヘルスケアニーズ）が存在し、これへの対策が住民の健康維持の重要なポイントとなっていることが判明しています。上越地域の各自治体の課題を把握し、解決のための本学も寄与できる実践の具体的な優先度を検討し、さらには長期的展望のもとに自治体と共に問題を解決できる体制を完成することを目標としています。

具体的に現在進めている研究課題としては、

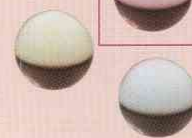
- ① 構造不況下における地域経済と家計の困窮の把握と、これによる保険医療福祉機関への入所・通所、ならびに在宅医療・地域ケア等の実態の変化。
- ② 豪雪へき地医療福祉機関の機能維持に関する調査研究。特に医師・看護師の人材確保問題に重点をおいた調査と対応策の検討。
- ③ 各自治体におけるソーシャル・サポートの調査。特に積雪期間の問題について対応策の検討。
- ④ 公的医療福祉サービス供給体の経営状況と維持する各自治体の対応の調査。
- ⑤ 豪雪地帯の旧来型住居構造の調査と、新たに地域ケアの視点からの住宅政策について各自治体の対応を調査。

等があり、いずれも研究形態として本学と自治体の共同の作業グループを構成して進めることを想定しています。

これらの研究の集大成としての目標は、ヘルスケアニーズに対応したサービス提供の優先度評価方法の開発ですが、各自治体の対応や各専門職の経験についての調査・聴取活動も必要と考えています。

（研究班構成）

代表：吉山直樹、副代表：大友康博、研究班構成員（順不同）：佐々木佐子、杉田 取、関谷伸一、大友優子、小林恵子、平澤則子、飯吉令枝、斎藤智子



第2研究班

研究班代表
教授 富川孝子



私たちの研究班は、「継続看護における連携システムの構築」という課題に取り組んでおります。

「継続看護」という言葉は、20年前は病棟と外来、手術室と病棟などの院内継続看護の意味で使われましたが、近年はケアネットワークや地域ケアシステムの構築の意味で使われるようになりました。その背景には、慢性疾患や障害をかかえた在宅療養者の増加があります。このような人々にとっての健康とは、病気との関連だけではなく、よりよく生きることとの関連で捉えることが重要になってきます。QOL、患者・障害者のエンパワーメント、健康的なライフスタイル、ソーシャルサポートや共生・連帯などの視点です。よりよい生活を営むこと、いきいきと生きること、その人なりに納得でき、満足できる人生を送ることを実現するには、保健・医療・福祉の連携が不可欠です。しかし、現実には病気との関連だけで健康を捉える見方が依然として根強く、さまざまな問題が生じています。

本事業では、成人の在宅療養者、療養型病床群を退院の高齢者、パーキンソン病の要介護者、長期入院の精神障害者、小児の救急患者を対象として、現状の問題点を明らかにし、保健・医療・福祉の連携に必要な条件を明らかにすることが目標となっています。

現在までに明らかになっていることは、健康観の変更が困難であるという問題です。医療サービスを提供する病院側が慢性疾患や障害をもつ人々に提供できる機能は極めて限定的であるにもかかわらず、病院側は無自覚、無責任に入院を引き受けています。一方、地域側は病院の果たす機能に過大な幻想を持ち、完全に回復してから退院してくるべきとの考えが強いのです。慢性疾患や障害を持ちながら地域でその人が望む生活をするのが当然とは考えない人が多いのです。もう一つの大きな問題は、患者情報の保護という問題です。保健・医療・福祉の連携には多職種間の情報の共有が必要ですが、それにはプライバシー保護に関する当事者本人の意思が尊重されなければなりません。当事者の主体性の尊重が十分でない日本では、これも大きな課題であります。

(研究班構成)

代表：富川孝子、研究班構成員（順不同）：中川 泉、朝倉京子、大友優子、中島紀恵子、加藤光寛、直成洋子、酒井禎子、西脇洋子、山元智穂、加国正子、井上みゆき、大久保明子、金井幸子、田中キミ子、北川公子、柏木夕香、俊成晴奈

第3研究班

研究班代表
助教授 橋本明浩



われわれの研究班は、「ヘルスケア提供者のためのリソースアーカイブの構築」という課題のもとに共同作業を進めています。

少子高齢社会をむかえ、看護・介護職・運動指導者など、住民のゆたかで健康的な生活をささえるヘルスケア提供者の活躍の場が広がっていますが、日本の保健医療福祉の領域では、欧米などと比較して、情報やデータを収集したり、それを分析した結果に基づいて意志決定をしたりする習慣が不足しているといわれています。このことは1994年の厚生省の保健医療情報システム検討会中間報告においても指摘され、「わが国の保健医療情報システムは保健医療関係者などの意思決定者がデータに基づいて客観的意思決定を行う際の情報支援に用いられることは比較的少ない。」としています。また、厚生省保健医療福祉サービスの情報化に関する懇談会の報告書では、「病気の予防や健康増進、高度な診断治療等の健康情報が手軽に利用できる総合的ネットワークの整備が必要である。」と述べられています。

ここでは「市町村を中心とした保健医療福祉サービスの提供と連携」により、すべての地域の施設のネットワーク化をすすめ、全国へひろげたい、というものです。

前述の背景を踏まえて、本研究事業では、「ヘルスケア提供者の為のリソースアーカイブの構築」を計画しました。ヘルスケア提供者の為のリソースアーカイブのコンテンツ（中身）は多岐にわたり短期間で全てを網羅することはできないので、複数年にわたる研究計画となっています。必要に応じていつでも取り出せるインターネット上のアーカイブ（資料庫）構築をはかるとともに、当初の具体的計画として下記①～⑤の諸点に着目し実現を図りたいと考えております。

- ① 上越地域における救急外来に対する患者および家族の要望と看護者の臨床判断能力について、調査を踏まえた情報化
- ② 在宅看護における医療的ケア技術教材の情報化
- ③ 身体や精神のハンディキャップを抱えた人々に関するサービス・アーカイブの構築。
- ④ 女性に関する教育プログラムの開発に関する基礎的研究
- ⑤ マルチメディア教材（①～④）のインターネット公開の基礎実証研究。

(研究班構成)

代表：橋本明浩、研究班構成員（順不同）：深澤佳代子、小林優子、山田正美、上原美樹、堀良子、山本澄子、熊倉みつ子、水口陽子、岡村典子、渡辺弘之、加城貴美子、高橋初美、小林美代子、和田佳子、笹野京子、阿部正子、高塚麻由、吉山直樹

参考

- 1) 保健医療情報システム検討会中間報告：www.mhlw.go.jp/public/bosvuu/iken/p0606-1.html
- 2) 保健医療福祉サービスの情報化に関する懇談会報告書：www.umin.ac.jp/houkoku.htm



教育研修部会

看護研究交流センター生涯学習支援事業では、地域支援事業の一環として次のような事業を行なっています。

まず、一般公開講座として、本学の教授と外部講師による公演や対談等、看護系学会等との共催あるいは後援によるシンポジウム等を実施しています。さらに、本学の特徴を生かし、「女性と看護」をテーマにして、学内外の講師による数回のシリーズで看護の目から見える「健康」について広く県民と講師が話し合いのできる場を作りました。

また、出前講座として、県内の希望のあった市町村に本学の教員が出向いて看護や医療などに関する講座を開講し

部会長
助教授 中村博生



たり、研修会支援として、市町村における研修グループのニーズに応じた研修支援を行なっています。

次に、看護専門職の方々を対象として、看護研究の方法等を研修していただくための看護専門講座、その他に看護情報処理セミナーや看護英会話セミナーなどを開設して、看護の専門性を深めていただくための機会を設けています。

このように、生涯学習支援事業は、広く県民の生涯教育の支援に寄与するために、県民との交流活動を通して、大学の研究成果を地域に還元し、看護や医療等の分野における質的な向上に貢献できることを念願しています。



ネットワーク部会

本部会は、ネットワーク構築事業を担当する。当初計画では、1 ホームページ（掲示板等を含む）の開設、2 保健医療福祉関係者及び団体のネットワーク構築、3 人材データベースの立ち上げ、4 センター報の発行、等がこれに相当する。年度を経る毎に充実が期待される部会である。

部会長
助教授 橋本明浩

平成14年度は、2に関連して「地域行政課題の把握及びネットワーク構築のための行政関係者との懇談会」を開催し、上越地区の22市町村のヘルスケア担当責任者の方々にお集まり頂き、現在抱えている問題点をお伺いし、熱心な発言がなされた。

上越市の紹介

上越市は豊かな自然に恵まれた新潟県西部の商工業都市です。春日山城下町、高田城下町として長い歴史と文化が引き継がれています。また快適な都市機能を持ち陸路・海路ともに交通の要衝ともなっています。

Joetsu City Guide

1km
2km
3km

北陸自動車道
国道8号線
国道18号線

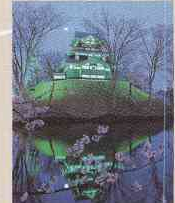
上越IC
上越高田IC

至新潟
至富山
至長野

九州・北海道行カーフェリー発着所
風力発電
佐渡汽船カーフェリー発着所
安寿姫、扇子王丸の塔
日本海夕日ライン、舟見公園
平和記念公園
福島城跡
あらかわ橋
直江津橋
直江津海水浴場
親鸞聖人上陸の地
上越総合病院
北警察署
御館跡
直江津駅
・労災病院
・五智公園、交通公園、青少年文化センター
加賀街道
ものがり館
春日神社
林泉寺
春日山城址
至富山
上越J.C.T
心のふるさと道
アジサイロード
正善寺ダム
上越健康管理センター
・オールシーズンプール
・文化会館
謙信大通り
上越市役所
総合体育館
春日山駅
謙信公大橋
春日山橋
ショッピングゾーン
中々村新田



至新潟
高田駅周辺
高田駅前通りとそれに交差する本町通りは上越市の中心商業地として賑わっている。



高田城(三重櫓)
慶長19年(1614)、松平忠輝の居城として築かれた。現在高田公園となり、桜の名所として知られ多くの観光客が訪れる。

上越周辺MAP


大湯町
頸城村
三和村
清里村
板倉町
妙高村
中郷村
新井市
名立町

大湯町
頸城村
三和村
清里村
板倉町
妙高村
中郷村
新井市
名立町

大湯町
頸城村
三和村
清里村
板倉町
妙高村
中郷村
新井市
名立町

大湯町
頸城村
三和村
清里村
板倉町
妙高村
中郷村
新井市
名立町



 新潟県立看護大学
 看護研究交流センター
 2003

住 所／新潟県上越市新南町240番地
 問い合わせ先／〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地
 新潟県立看護大学 看護研究交流センター
 代表 Tel 025-526-2811 Fax 025-526-2815